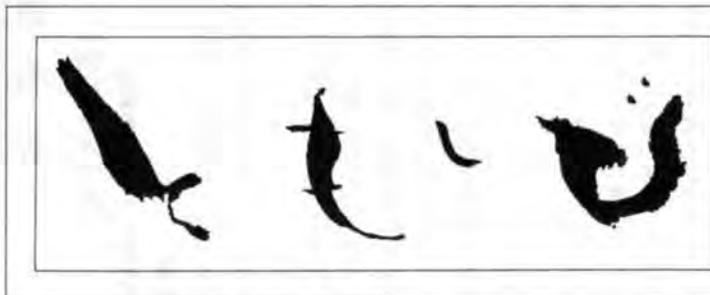


大学婦人協会東京支部

1990.7
第8号



- ベルギー所感 その1 自然
- 記念講演「明日をみつめて」

中国の天安門事件に驚かされた昨年の春に次いで、社会主義の崩壊と、全く突然の世界情勢の変化に、平穏な生活に馴れ切った私共は、大きな衝撃を受けさせられました。これから如何なる事態が生じるやら、想像出来ない時代になり、昔の十年は、今の三年と、激しい動きを認識するだけで精一杯のこの頃、高邁の理想を掲げる「大学婦人協会」の支部として、何を考え、何を為すべきか、

大多数の会員の皆様とは、この紙面ではじめてお目にかかることになりました。これから二年を、宜しく願います。

入会と殆ど同時に、東京支部長を仰せ付かり、私自身大いに戸惑いを感じております。



新入り、
支部長からお願い

東京支部長 金子京子

新入りの私は、会員の皆様の御知恵を拝借し、御協力いただいで、地道に、確実に、会の発展に寄与させていただけたら幸いと思えます。

今回試みとして、新委員の方達に積極的に、会の運営に関与していただく為に、十五名の方々を三つのグループ、即ち、編集(ともしび)、見学会、講座に入らせていただき、各グループに役員を配置して出発致しました。夫々に成果を挙げていただけるものと期待しております。

会員の皆様が無理なく御参加なされるように、見学会、講座等の時期、内容も考慮して、企画し、御案内致しますから、ぜひ御賛同お願い致します。

重ねて会員の皆様の御意見、勿論苦情等もございましたら、御遠慮なく耳に入れさせていただきますよう御願ひ申し上げます。



支部総会開かれる

'89年度東京支部総会は四月二二日(土)に国立教育会館で開かれた。出席五〇余名、委任状三四〇で会は成立。議事に入り一九八九年度事業報告及び決算報告と承認、会計監査報告と続き、一九九〇年度事業計画案及び予算案も審議、満場一致で承認された。今年には役員交代が多く、退任される藤井支部長始め役員委員の方達の労に感謝すると同時に金子新支部長を迎え、ご挨拶の後、新役員新委員の紹介があり、今後の活躍に期待して今年度がスタートした。更に中村会長から一九九一年一月一三日(土)日までタスマニアで開かれる第28回オーストラリア大学婦人協会総会参加ツアーを財務委員会と検討中である事と、一九九五年IFUW総会開催地が日本に決定し51ヶ国千名以上の参加が予想されるので会場等について意見を聞かせて欲しいとのご挨拶があった。休憩後に行われた阿部志郎先生の講演は癩患者の為に生涯を捧げた井深八重さんの生き方を中心に、自己抑制し人の為に尽くす福祉のお話で、胸をうつ大変感動的なものであった。(太刀川)

講演会

「明日をみつめて」

横須賀キリスト教社会館館長

阿部志郎氏

現在、福祉関係の第一人者として活躍される氏もかつてはボランティアもソーシャルワーカーなる言葉も知らぬ、実業家をめざす大学生であった。ある夏、岩下社一神父(哲学者)の業績を慕い御殿場に神山復生病院を訪ね、異様な腐臭漂うライ病床で淡々とかつ力強く患者の包帯交換をしている一人のナースと出逢う。彼女こそF・ナイチンゲール賞の受賞者で日本の聖女に選ばれた井深八重氏その人。かつて患者として故郷を遠く離れた地に隔離されて失望のどん底に突き落とされるが、誤診と解

つてからもナースとなつて留まり、引退後も終生ボランティアとしてライ患者と共に在った。氏はこの運命的な出逢いによってその後の人生を大きく変え、彼女の無私な姿に神の前に人は平等という犠牲と奉仕の世界、福祉の原点を視、社会の中で切り捨てられるいと小さき者の幸せを確保する福祉の世界に献身される。今こそ真の人間生活とは何かを問う、感銘深い一つの呈示であった。

「開発と教育を念頭において」

国連大学事務局長 伊勢桃代氏

5月8日婦人情報センター

伊勢氏は慶應大学社会学科御卒業後シラキユース大学で社会学修士、コロンビア大学で都市計画修士をお取りになり、1969年国連本部御勤務、1988年より国連大学事務局長として御活躍中です。

まず氏は、社会をどのように方向づけて行けば良いのか、国連の立場から見ても予測しにくい時代であると述べられました。さらに環境とは私達の住んでいる所であり、開発とはそれをより良くするものでなければならぬと述べられ、世界は互いに影響しあっていて、何事も一国では解決出来なくなっている事を指摘されました。ブラジルの原始林の保護、オゾン層の破壊問題等が日常性活と直結しているという認識が大切だとされ、資源の無駄遣いや、スプレー一吹きが環境に影響を与えているという例を挙げられました。また世界の53億人の人口のうち不識字者は約10億人をしめており教育も大変難しい問題を抱えていて、一人の為の教育ではなく世界の為の教育をと述べられたのが印象に残っています。

(駒木)

「女性と開発教育」

学習院大学教授 波多野里望氏

5月15日婦人情報センター

今回の講演を聞き、南北問題に注目させられた。現在、世界は、先進国と発展途上国に二大別されている。発展・先進という言葉は産業に代表される経済力に関して使われる言葉である。私はこれらの言葉を誤解していた。経済力に裏打ちされた生活水準、これは文化も含む概念へと広がるのだが、これらを混同視していた。私達が解消せねばならないのは産業における南北問題である。文化それ自体は尊重すべき存在である。これを念頭に置かない援助が南北問題をより複雑にしている。

講演の後、リヤカーの話が頭に浮びました。確か、東南アジアの青年が自国で使用した日本製のリヤカーの有用性に感動して来日し、町の小さな工場に住み込んで、製造技術を取得中である。この為に国も資金援助をしている。

この様な援助こそ、先生の言われる両者の文化を認め合った上での真の援助であり南北問題解消への糸口となるのではなからうか。(有本)

●ユーロバリアアジパンを終えて

ECの成立ちからユーロバリアアジパン開催に至る経緯を企画・実施に携わられた山本明子氏(支那)のお話

●ハンガリー近況 昨冬大森たへ子氏(副支)が神奈川支部で発表の激動する東欧に於ける研修報告(掲載)が好評、東京支部でも目に触れる事の少ない東欧事情がスライドを使って興味深く語られた。3/5於婦人情報センター

レバノン大使館訪問

2月20日横なぐりの氷雨に濡れながら麻布台タワープラザ内のレバノン大使館を訪問、山本氏とベルギーでお知り合いの大使夫人にお花とカステラを藤井支部長から進呈した。

中東戦争で破壊される前のビデオを見せて戴く。中東と云えば砂漠と炎熱の国との連想が浮ぶが、レバノンは雪を頂く高山と地中海に面した美しい海辺に恵まれ、気候は温和で戦争前は素晴らしいリゾート地であった由。スキー場は日本のようには混みませんと大使夫人のお話。

茶菓のお饗しを戴いた後で戦争の被害を受けた子供達の写真を拝見、心ばかりの寄付を差し上げてお別れの挨拶中地震の一揺れに驚かされ大使館を辞去、雨も幸い止んでいた。

他支部活動紹介

金沢支部

「播磨期の支部として」

山村福子

金沢支部は一昨年十月に誕生しました。当面の活動方針として一、会員相互の親睦と教養に関すること、二、社会福祉に関すること、三、国際理解と親善に関することの三つを掲げ、隔月一回行事をすることにしています。一、の行事としては年間の研究テーマを決め講師を招いて研究会を開催。昨年のテーマは「東南アジア諸国の現状理解」で政治・経済・衛生問題等広く学びました。今年のテーマは「東欧諸国の変動を学ぶ」で四月には東ドイツを取り上げました。二、の行事としては年末に社会福祉関係の研究会を開き会員から募金し施設へ寄付しました。三、の行事としては新年会に県内在住外国人女性を招き交流したほか、他の国際交流団体との協力事業も行いました。現在、会員は三十四名。支部の行事に参加してくれる「地区会員」が三十名いますが、今後は会員を増やし、活動分野も広げ、セミナーでも研究報告できるような力をつけていきたいと願っています。

長野支部

「ささやかに地道な歩み」

三千千代子

長野支部は会員二十三名、少人数ですが、本支部には創立当初よりの大先輩もお元気で毎例会に出席され御鞭撻を頂いております。

総会を含め例会は二ヶ月に一回、長野市を中心にして集まりを持ち、その年の本部のゼミ、支部のオリジナルテーマなどに沿って、学習、歓談、会員の親睦を行っています。

昨年は国際化を一応支部テーマとして県の冬季オリンピック招致の社会情勢もあり、四月信州大学の教授に英会話学習の導入をお願いし、例会毎の学習をはじめました。六月初夏の例会は、近郊の高原で森林浴と欧風料理の会で心身共にリフレッシュ。秋九月、フアッションと国際感覚を身につけるべく専門家にカラーコーディネートなど実地も含めての講話をお願いし、一同若々しさを増す楽しい学習をもちました。新年会は会食と、国際親交をめざす英会話レッスンに一層力が入りました。今年も本会の成果が、各会員により社会に還元できるよう、ささやかな活動を続けて行きたいと思っています。

東京証券取引所

山種美術館を訪れて

草島三輝子

六月二十二日、地下鉄茅場町駅に集合、先ず東京証券取引所に向う。証券会社や銀行が立並び、人や車の動きが忙しい兜町に一際目立つ白い石造の建物が証券取引所であった。

二階の講堂でビデオによる説明を受けた後、いよいよ株式売買の立会場の見学である。ガラス張りの廊下から見下ろすと、黒いボードを張巡らした巨大なブルの底に大勢の白Yシャツ・紺や茶の背広の男性が入混じって動いている。中央には大きなブースが四つあって、内側に十四・五人の男性が並んでいる。紺色は取引所の職員、茶色は才取人といった売買を付合わせる専門家だそうである。壁際のボードの下は雑段の様に仕切られた証券会社のブースで、両手をあげいろいろ動かしている男は銘柄、売買別、数量の信号を売買ブースの辺にいる自社社員に送っているのだそう。ガラス張りの廊下からVIPルームに入る。ここだけはガラスがなく立会場の活気が一気に押寄せできた。

五階のコンピュータールームで、東証一部二部上場銘柄の大部分と外

国株が処理されると聞き、こんな小人数で処理される事実に驚きを禁じ得ない。一部上場銘柄のうち売買高の多い一五〇銘柄が先程の立会場で沢山の人手によって売買されるということで、時代の移り変わりを垣間見る様である。向いの室ではTOPIX先物取引という東証株価指数の将来の数値が売買されているそう。経済の仕組みの不思議を感じた。

東京証券取引所は今やニューヨーク、ロンドンよりも売買高が多い世界の取引所となったが、機械万能の時代に信号が残されていることには何かほっとするものがあつた。

昼食は人形町の魚久の新装成った席で老舗の味を楽しみ、次は茅場町に戻って山種美術館(山種証券九階)に向う。ここでは取引所と打って変わった静けさの中で、院展の三羽鳥、小林古径・安田靉彦・前田青邨の日本画の心韻に触れ、眼も心も洗われる思いであつた。

世界のトップを走る日本経済の活力と老舗の味わいと日本画の静謐の美に堪能した一日であつた。



ベルギー所感

その1 自然

山本明子

一九八三年から八七年までの三年九ヶ月を、ベルギーの首都ブラッセルで、私は主人と共に過ごした。言うまでもなく、ブラッセルは欧州共同体の本部が置かれている所でもある。面積は約三万平方メートル、人口は九八五万人余で、一平方メートルあたりの人口は三二二人、日本のそれとあまり変わらない事になる。オランダの国土が低いと同様に、ベルギーは、詩人、ジャック・プレルがいみじくも「この平らな国、これが私の国なのだ」と歌ったように平らな国といわれている。アルデンヌ地方が一応山岳地帯といわれるが、一番高い所で、せいぜい五百m位である。

これだけ国が平らだと、その国の印象も日本とは大分違ったものになる。日本のようにどこへ行っても人で一杯というのと違い、広々とした田園がどこまでも続き、街でも大体が人影まばらである。その上習慣の違いという事も加わる。この間、上野の西洋美術館へ行った時、まさに桜花爛漫の折から敷物の上でお弁当を食べている人、カラオケで歌う人、

大変な混雑で全く驚いてしまった。

ブラッセルにも桜の並木道はスーヴランという通りにおいて、花の色は日本のよりも濃い。気温が低いせいのか花の期間も長く、両側から枝が出て花のトンネルが曇り空の下で、しんと静まり返っている様子は、それは見事なものであるが誰もわざわざ花を見に出かける者などいない。それは桜ばかりでなく全ての花について同じ事が言える。市内でも公園等の緑地帯が多いと、自然が手近な所にあるのでわざわざ出かける必要がないからであろうか。私達の住んでいた公邸は中心に近い所にあるが、市の南側に広がっている大変大きなスワニーの森がすぐ近くにのびて来ている。これはぶなだけで構成されている森で、ベルギーには、このぶなだけの森が多いが、大木ですんなりのびた大変美しい木である。四月の末頃、下草が一面に白又は紫の花を咲かせる。真直ぐのびた大木の森だから下はゆっくり散歩出来る空間があり、そこに一面敷き詰められた野生の花々に囲まれて人っ子一人いないしんとした中に立っているとメルヘンの世界へ彷徨いでた感じがする。ブラッセルに近い森の中でさえ、本当に迷ってしまいそうになる。ア

ルデンヌ地方に行くと、森の中で鹿や野兎に会う事もある。

昨秋ブラッセルで、ユーロツパリアという日本をテーマにした芸術祭があつて、市内の中心のヒルトンホテルの二十階に泊つたが眺めると全くの中心地域でさえ、建物の後に随分緑の空間がある事に気がついた。実現出来るか否かは別にして、大方のベルギー人の夢は、少々事務所に遠くてもいいから庭付き一戸建ての家を持つ事である。



車を二台持っている家庭も多いから、多少不便な所に住んでいても通勤は何とかなる上、転勤があつても国が小さいのでベルギー国内の都市なら単身赴任などする事なく立派に

自宅から通えるのである。

一九九三年の統一ヨーロッパを前にして、ブラッセルとその付近の土地の値段がここ二、三年で二、三倍に上つたがそれにしてもヨーロッパの中では最も住宅事情に恵まれている国の一つという事が言えよう。裕福な人々は相当広い手入れの良い一戸建ての家に住み、かなりの金持ちとなると庭の中に川が流れ隣人との境界ははるか彼方という事になる。リエージュの南のそんな未亡人のお宅を訪ねた折、家は森の中の斜面に建ち花に囲まれて素晴らしかったがあのような所に一人で住むのは一寸淋しいのではないかと思つた。

セントの郊外のラテン・サンマルタンやアントワープからオランダのブレダに抜ける辺り、森の中に夢のような美しい家が点在している。これはオランダだがハーグの郊外のワッセルナールもそうだ。

こういう自然の広さ美しさは、GNPの中に入つてこないもので、私がいくら否定しても結局日本人は金持ちという事になってしまう。これだけはベルギーの友人達に実際に日本の生活を見てもらわれない限りわかつてもらえないのである。

(写真・アリュージュ・修道会と筆者)

'90全国総会に出席して

上野から上越新幹線で一時間半余、ぐんと近くなった新潟で第三回総会が開かれた。出席者総数二〇七名、東京支部からは六二名が参加した。恒例の懇親会で、貴重な伝統芸能の角兵衛獅子を健気に守り続けている小学六年生がその妙技を披露してくれた。支部会員の方々から「佐渡おけさ」の踊りの手ほどきをしていただいたり、郷土色にあふれた趣向で幕を開けた。

総会の議事については本部会報をご覧いただいたと思うが、東京支部に特に関わりのある事項として、再来年の総会の東京開催が本決まりになったことが報告された。東京支部会員が協力して早めに準備にとりかからなければならぬと、責任を痛感した。また、今年度はセミナーの形式が若干変わる予定で、東京で開催されるとの報告もあった。審議を通じて、いくつかの地方支部が地元で重要な位置づけをされ、公共機関の政策決定にも積極的に参加している様子が伺われ、東京という大都市の特徴から無理なこととはいえ、活動のあり方を考えさせられた。

翌朝ジェット・foilに乗って

佐渡に渡った。梅が満開の島では、のどかにも観光バスの運転手までがハンドルを操りながら「おけさ」を唄い、やんやの喝采を浴びる。日蓮宗の古刹・根本寺や、承久の乱で配流の身となって二二年の末に自ら命を断つた順徳上皇を偲ぶ真野御陵を訪れたあと、船中から奇岩の並ぶ尖閣湾の景観を楽しみ、最後に金鉱跡を見学した。真つ暗な坑道で、かつて苦役にあえいだ人足たちの姿を模した電気仕掛けの人形がふいに振り向いてぎよつとさせられる。金鉱にしても絶滅の危機に瀕して今は名ばかりとなった朱鷺の郷にしても、佐渡を代表する貴重な資源が失われていくのは寂しいかぎりである。

(平野)



風薫るころ

アネモネの灯下妖しき地震のあと

浮間の日溜めプリムラの花枝敷

麗かや鳩が鈴振る浮間池

桜草絶えし浮間ヶ原青む

ひらひらと海女の足裏や青葉潮

茶摘唄富士も端山も見ゆるなり

羅衣や背骨すぐなる老の意地

町遅日もも色でんぶ買ひにけり

船と陸つなぐ声飛び鯉どき

夏初め奈良絵のならぶ登り窯

黒南風や村一列に海に添ふ

藤浪の薄日のいろに五十路過ぐ

村上光子

池森昭子

大竹泰子

木下二三子

佐藤千鶴子

坂上節子

住吉芳子

高橋福子

馬場八巻

山口晃子

山田嚶子

鷺崎ヨウ子

大学婦人協会俳句会作品

指導 村上光子先生



「どうぞよろしく!」

東京支部新委員

少し心にゆとりが出来た頃、尊敬する先輩方のお誘いで参加させて頂きました。「ともしび」の係を通して、様々な出会いを期待しています。

阿南 糸代 (東 女)

先輩のお誘いで入会させて頂きました。私の生活のスパイスになりそうで期待しております。よろしくお願ひいたします。

北村 和子 (実 践)

個性豊かで、有能な方々との出会いを大切に、楽しくお手伝いさせて頂きたいと願っています。

草島三輝子 (日 女)

すばらしい会に入り、「無知を知る」と言われるように、自分自身が如何に何も知らないかということを確認しました。これからは、確かな「知」を追求したいと考えています。

有本 玲子 (聖 心)

私とは無縁の存在と思っておりました当会に、思いがけず御仲間に入れて頂く事になりました。優秀な、魅力溢れる方々と御一緒出来て幸いです。

高井 敬子 (聖 心)

先輩のお誘いが嬉しく、不安ながらも生来の野次馬根性で入ってみました。諸姉の豊富なご経験、知識を貪欲に吸収させて頂いたのが楽しみです。よろしく。

石津 幸子 (大 女)

やさしく、熱心で、すてきに才能豊かな先輩委員の方々にお教えを頂いて、いつかは私も一人前に(なれますように)。

永津 栄子 (茶 大)

諸先輩との素晴らしい出会いと共に、IFUWを通して社会に微力でも何かお役に立つことが出来ればと思っております。

磯村 明子 (慶 応)

協会の活動を通し、多彩な諸先輩に触れ、新しい視座を学びたいと参加させて頂いたことになりました。

福田 練子 (ICU)

坂井千春 ピアノリサイタル

リスト : 2つの演奏会用練習曲
超絶技巧練習曲より「管かき」
巡礼の年第2年イタリアより
「ダンテを読んで」
ラヴェル: 段
メシアン: みどり児 イエズスにそそぐ
20のまなざしより

7月2日(月) 7:00PM

東京文化会館小ホール
¥3,000(全自由席)
お問い合わせ: 自宅 03(911)5990

- 1986年 マリア・カナルス 優勝
国際音楽コンクール
- 1987年 ポルト国際音楽コンクール 優勝
- 1989年 ロン・ティボー 第5位
国際音楽コンクール

大学婦人協会会員

レクチュア&コンサート

支部委員、伊能美智子氏(作曲家)による演奏会が昨年と同じく、音楽之友ホールで去る六月八日に行われた。新曲モノオペラ「マクベス」等がバスの佐藤征一郎氏他により演奏され、満員の聴衆を前にしての熱演であった。会場には支部の方達も大勢みえ、終わりに副支部長からの花束贈呈も行われた。

編集後記



入道雲の季節間近、支部委員交替に伴い「ともしび」の編集にも新たに阿南・石津・武田・斉藤の四名が加わり、又企画に当たっては書記太刀川・会計羽山の二名も参加、一層の充実を図ることになりました。昨秋、ユーロバリアジャパンの大任を終えられた山本氏から、講演とは一味違う「ベルギー所感」(主婦の目で見たベルギーの自然と食生活)をお寄せ戴きました。9号にも連載いたします。どうぞお楽しみに。

9月のセミナーに向けての伊勢桃代・波多野里望両先生による講演、今私達は何を為すべきか、考えさせられました。魅力ある「ともしび」に!! 皆様のご投稿お待ちしております。(斉藤)